

26年度 高石事業報告

高石特別養護老人ホーム
老健サンシャイン高石
高石老人デイサービスセンター

概要

1. 人材確保と育成

①新卒定期採用4名(Cw2、栄養士1、機能訓練員1)

②介護キャリア段位制度導入の第一歩としてアセッサー6名誕生

③職員数

	特養	老健	デイ	合計	} 107名
(4月1日現在) 正規職員	34	33	5	72	
契約職員	13	21	1	35	

2. 入所者の健康と安全

①事故防止:重大事故は老健に5件発生、特養は法人全施設中唯一の無事故施設となった。

②感染症:1月に特養(約3週間)、2月老健(約1週間)でインフルエンザ感染症が発生、面会中止などの措置を取った。

3. 健全財政の確立

①円安、消費税Upにより消費者物価が上昇したが、食材、光熱水費など、無駄の排除などで節約して物価上昇のかなりの部分を吸収した。

収入額	人件費	食材費	光熱水費	(25年度を100とした指数)
100	103	102	103	

②この結果、前年度並みの決算をすることができた。

4. 潤いのある日常生活の提供

整容、居室の清掃清潔、行事の活性化などを掲げて活動した。

①整容:家族から服装、髭剃りなど身だしなみに関する要望がある等きめ細かな日常点検が必要。

②居室の換気、キャビネなど整理・整頓・清掃・清潔に取り組んだ。

③入所者に一般社会の空気に触れてもらうために新しいボランティア団体による慰問などを増やした。

5. その他

①26年9月末を以て居宅介護支援事業所(職員2名)を閉鎖。

②児童福祉施設の立ち上げ業務に事務員がそれぞれの分野で協力した。

1. 人材の確保と育成

◇介護は人なり

1)介護職員採用・育成	
① 新卒採用	採用活動のシステム化<学校訪問、パイプ作り、研修システム> ◆保育園等開設準備と重なりシステム化の実行ができなかった。
② 高校新卒育成	高校新卒第1期生(1名)の教育(導入研修、配属後の実務教育) ◆児童福祉施設準備と重なり導入研修をせず直に現場配属
③ 中途採用	◆採用7名、うち現在籍者は4名でいずれも戦力として成長
2)看護職確保	◆正職2名いずれも定着。同パート4名中2名退職
3)仕事と育児の両立	◆育児短時間勤務者の有効活用(育休3名、復職4名)
4)職員教育の充実	
① キャリア段位制	◆アセッサー6名資格取得、3級レベルの審査に入った。 27年度中には6名の段位認定者が出る予定。
② マニュアル再教育	◆組織的な研修はできなかった。研修担当のインストラクターを 配置しなければ効果的な教育のむつかしさを感じる。

2. 入所者の健康と安全

◇日々安心の生活

1)事故防止	
① 重大事故ゼロ	イ)巡回・見守り強化による転倒・転落事故予防 ◆特養ゼロ、老健5件 ロ)細心の注意を払って食事介助を行い誤嚥事故ゼロ 誤嚥のヒヤリハットは数件あるも大事に至らず。
② 一般事故半減	イ)事件事例研究で危険予知(気づき)の力を高める。 ◆発生件数118件で過去と同傾向で100の壁を突破できず。 ロ)介助技術向上により介助時の事故(主として皮膚剥離、内出血) を減少させる。 ◆剥離・内出血が約40%と相変わらず多発
2)疾病予防	
① 異常の早期発見	こまめな視診で異常の早期発見・早期治療 ◆大きなミス、家族とのトラブルなどは発生せず。
② 感染症集団発生 防止	イ)感染症予防マニュアルの再教育 ロ)委員会による予防対策の実施と啓蒙活動(ポスター、標語など) ◆インフルエンザ感染症が1月に特養で約3週間、2月老健で約 1週間発生、面会禁止期間も約2か月に亘った。

③ 褥瘡ゼロ	発赤などの早期発見・処置、体位変換などの取組を継続して実施
	◆発赤早期発見で効果を上げているが施設内発症者特養で2名発生した。
④ その他	医務・介護・機能訓練・栄養管理の各部門の連携強化による健康管理体制の充実
3)虐待防止	
① 言葉による虐待防止	入所者は言葉一つで、不安にもなる。常に、丁寧な言葉遣いを意識して業務に従事する。
	◆自覚のない虐待、ネグレクトを無くす取組をおこなったが未だ十分とは言えない。

3. 健全財政の確立

◇入りを図りて、出るを制す

1)収入増の取組	
① 日常の健康管理を徹底して入院者を減らし、ショートを含む稼働率をアップする。	
◆入院ベッドの有効活用などで稼働率100%は達成した。	
② デイサービスの稼働率を80%後半にまで引き上げる。(25年度実績見込みは70%強)	
◆実績74%。新規獲得するも利用回数の多い高齢者の入院・入所で効果が出なかった。	
2)職員の配置	
① 介護部門は法定数+10%の原則を継続、その他の部門は現状維持とする。	
◆平均勤続7.8年で定着率は向上	
② 全職員は自己の業務遂行能力向上させて効率化を図り、それをサービス向上に結びつける。	
◆介護福祉士資格取得 3名受験1名合格(いずれも特養)	
3)諸経費節減	
① 消費税率アップ(5⇒8%)に伴う電気・ガスなど燃料費のほか諸物価の上昇を、無駄の排除(残食量低減、節電・節水、消耗品節約など)で極力圧縮する。	
◆食材2.6%、光熱水費3.4%増加したが、消費者物価上昇率(電気8%、ガス5.9%肉類7.6%)よりも低い水準に落ち着いた。これは食材調達法の工夫、電気・ガス節約の結果。	

4. 潤いのある日常生活の提供

◇入所者の笑顔を生み出す

1)身体の整容	
① 爪切り・ひげそりの定期的な実施、更衣及び服装の乱れがないか常時点検	

◆清潔な身だしなみを目指すもまだ不十分。家族からも着衣の汚れ、着せ替え ひげそり・爪切りの不十分さを指摘されることが何度かあった。
2)設備の清潔維持
① 居室内(含むキャビネット、ベッド等)の整理・整頓・清掃
◆概ね合格点だが、毎日家族が面会する入所者のキャビネなどの点検を疎かに する傾向がある。針、はさみ等持ち込み禁止物が発見されることがあった。
② トイレ(含むポータブルトイレ)清掃の徹底で悪臭を追放
◆換気、清掃に留意、悪臭が減り、清掃の徹底により清潔感も増した。
3)職員の親切な対応
① 行動指針3ヶ条の実行
◆継続は力なりであるが、真に身についたものになるには更に努力を要す。
4)慰問行事
① 職員による慰安行事を充実させる。
◆外部のボランティアグループを4組掘り起した。

以上

添付資料

26年度の目標とその達成状況(部門編、委員会編)